

## 回覧

# 地域再生協議会だより

百合が丘2-29-6 (老人憩いの家) 59-9356 (火・金午前) [isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp](mailto:isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp)

## 空家対策、国交省へ申請 空家を出さず、利用・活用へ

再生協議会は20日(水)に部会長会議を開き、国土交通省に空家対策への取組みに関して補助事業申請を決めた。地域内での空家発生を抑えるための「家仕舞・利活用講座」を集中的に開催し、リフォーム期を迎えた住宅の利活用を促す体制を整える。初年度の事業費は約150万円を見込む。計画は国交省の審査を受け、7月中に採否が決まる。



資産が活かされず、近隣にも迷惑が

申請した事業の名称は、一色小学校区地域空家等循環再生事業。資産管理、住み替え、空室・空家の有効活用策、相続対策などをテーマにした家仕舞・利活用講座を通じた住民の啓発や相談人材の育成と、住宅が劣化する前に利活用を支援する地元専門家集団の育成が二つの柱。このほか、「家仕舞・利活用読本」の制作、東海大と組んでの地域内外からの住み替え、移り住みの実態把握にも取り組む。

事業申請が認められた際には、9月以降、一色小・地域こうりゅうルームを使って月1ペースで講座を開く。また事業推進に当たっては、特定空家、相談体制など空家対策に本腰を入れはじめた二宮町とも連携して進める。

## 4度のステージ内定、やまゆい合唱団

やまゆい合唱団の今年度のステージ出演が4度に及ぶことが内定した。4月から声楽家の桑田葉子さんをリーダーにした新指導体制がスタート。月2ペースの練習を重ねている。発表の場は10月の県公社主催音楽祭(ラディアン)、11月のやまゆい里山音楽祭(一色小体育館)が確定しているが、練習の成果を披露する場を増やす可能性を探っていた。その結果、このほど10月末の二宮町合唱祭(ラディアン)、来年1月の二宮町新春の集い(同)への出演見通しがほぼついた。

合唱祭は運営準備の実行委員会に加わっており、新春の集いは近く関係者との打ち合わせが始まる。合唱祭には、町内の主なサークルが登場するため、地域合唱団としての力量が問われる。



練習には毎回、6、70人が参加する

# 注目イベント・続々 7・8月

- ・7月21、22日 28、29日 友情の山ヤマユリ公開
- ・7月14日(土) 「君たちはどう生きるか」 原 道子先生(教育委員)
- ・8月6日(月)～10日(金) 夏休み囲碁教室

盛夏7、8月も注目すべき催しが相次ぐ。まず、一色小の夏休み入り直後に組まれた友情の山ヤマユリ群生地での公開。今年で3回目だ。この間、専門家のアドバイスを受けて2度にわたる日照対策(間伐)を行い、その効果は徐々に始まる頃だ。2回の山野草の観察会も予定しており、期間中に千人近い来場者を見込んでいる。



原道子教育委員の「君たちは——」も注目の企画。ベテラン教育者の原先生がこのベストセラーをどう料理するか。子育て世代には是非参加して欲しい催し。

囲碁教室は、春休み企画の続編。百合が丘囲碁クラブ(直井倅親会長)のメンバーが5日間にわたって指導する。ただ、子供たちの送迎には保護者責任が求められる。

## 「農の6次産業化」がカギ——猪股理事長が講演

二宮再生のカギは農業だ——。9日(土)のこうりゅう塾での猪股篤雄県住宅供給公社理事長の発言に、参加者は驚かされた。講演では、世界経済の流れと神奈川の住宅開発の関係を整理したうえで、県公社の団地再生の取り組みを紹介。高齢者向け住宅経営との関連で「食」分野での様々な取り組みを行い、今後も「農」周辺の拡充に力を入れていくと語った。

質疑の中では、「神奈川に農業に関心ある人をどんどん呼び込みたい。公社グループは野菜類では相当の購買力がある」「二宮は自然の豊かさや「農」に近い立地を生かし、「農」に付加価値を付けていくことで展望が開ける」などと語った。参加者は約40名。



県公社の戦略を語る猪股氏

## プログラミングに熱気、一色小児童

20日(水)、一色小で学校連携部会(山本正博部会長)などが主催のプログラミング講座が開かれた。同講座は11日(月)に続く2回目。事前申し込みの全員39名が出席した。1-3年生対象だったため、マウスの操作に慣れない子も多かったが、時間が経つにつれ講座に引き込まれていった。

会場のPCには村田町長、府川教育長、同校の先生、保護者、取材記者など多くの関係者が見学に詰めかけた。「子どもたちのこんな真剣な眼差しは久しぶり」「いずれ正式科目になるなら、こんな場をもっと多く設けて欲しい」などの声が聞かれた。



子供たちの作品が大きな画面に